



第五章

未来を担う 人づくり

Building People for the Future



未 来 を 担 う

001 学校教育

うるま市には現在、幼稚園20園（公立18園、私立2園）、小学校22校、中学校13校があります。本市の学校教育は、児童生徒一人ひとりがこれからの社会変化に主体的に対応できる資質や能力を養うため、自ら学び、自ら考えるなどの「生きる力」の育成に努めています。

小規模学校におきましては、その特性を活かし、地域に根ざした創意ある教育課程を編成・実施し、少人数・複式学級における学習指導の改善・充実を図るとともに、合同学習・集合学習・交流学習を積極的に推進しています。

また、幼稚園教育につきましては、幼稚園教育要領に基づいて、各幼稚園の実態に即した教育課程を編成するとともに年間指導計画の改善・充実により、自主及び自律の精神の芽生えを培う幼稚園教育を推進しています。

これからの教育は、学校・家庭・地域社会・行政が一体となった施策が必要であり、保護者や地域社会との連携や地域人材の活用など「開かれた学校づくり」にも取り組んでいます。



学校・家庭・地域・行政が一体となった教育。子どもたちの笑顔が輝くほど、まち全体が明るくなります。





づ く り



School Education

There are 20 kindergartens (18 public, 2 private), 22 elementary schools, and 13 junior high schools in Uruma City. The children are taught how to think for themselves - the abilities to live - to acquire tools to cope with the changing society in a responsible manner.

Small schools implement their own creative curriculums that are deeply rooted in the region, and practice small and sometimes combined classes for improved instructional efficiency. Exchanges among schools are strongly encouraged as well.

As for kindergarten education, all curriculums are designed based on the instructional guidelines created by the government, but each kindergarten arranges its curriculum to meet its particular operational and educational needs. Children are taught according to the one year instructional plan that aims to instill a sense of independence, responsibility and self-direction.

Education today must be a cooperative effort among the school, family, local community, and government.

We are working with parents and local communities, and actively recruiting local talents, to build schools that have strong ties to their communities.

002

社会教育

うるま市では、市民一人ひとりが“いつでも、どこでも、だれでも”学べる学習環境を整備し、市民の多様なニーズに応じた生涯学習を支援するとともに、社会教育関係団体の指導・育成に努め、世代を超えて学びあう生涯学習のまちづくりに努めています。

中央公民館や地区公民館を拠点として、各種講座・教室・学級など学習機会の拡充を図り、市民自ら学習する意欲と能力を培い、心豊かな人間性の伸長・資質の向上に努めています。また、社会体育については、市民が日々健康な生活ができるよう各種スポーツ教室の開催をはじめ、指導員の養成やレクリエーション団体、マリンスポーツ団体の活性化を図り、生涯スポーツ社会の実現と市民に夢と感動を与える競技スポーツの推進に努めています。

Social Education

Uruma City strives to create an environment in which any citizen can learn whenever and wherever he wants, and one example of this is the city's support of continued education programs that serve the varying needs of the citizens. The city is committed to assist the development of social education organizations to create a learning environment for all generations.



生涯を通じて行う趣味やスポーツは、人生をより良く充実したものにしてくれます。若い人からお年寄りまで世代を越えて行う生涯学習をサポートします。





うるま市には、優れた文化財・伝統芸能が残されています。先人たちが大切に育んできた地域文化は、そこに住む人々に誇りと連帯感を与えてくれます。



003 地域文化

文化的財産を保護・継承し、郷土の歴史・文化・自然を見つめなおすことは、市民の誇りや連帯感を高めるとともに本市の魅力づくりにもなります。本市では、世界遺産に登録されている勝連城跡を中心に整備事業を推進し、歴史的環境の保全に努めています。

また、市指定の無形文化財の支援や、地域で守られている文化財の指定、エイサーや獅子舞など市内外へ誇れる民俗芸能・伝統芸能の保存継承に努めています。

本市の文化活動の拠点となる市民芸術劇場・石川会館・きむたかホールは、文化協会をはじめとする各地域の文化活動団体等と連携を図ることで、地域特有の民俗芸能や伝統芸能の保存・継承・発展に大きな役割を果たしています。

Regional Culture

Uruma City is working to preserve historic sites and its proud World Heritage site, the Katsuren Castle Remains.

The city is also committed to the preservation of city-designated important intangible cultural heritages, the designation of regional cultural properties, and the preservation of folk performing arts and traditional performing arts such as Eisa dance and lion dance.

004

保健医療・福祉

本市では、「やすらぎとふれあいが支える健康・福祉づくり」を基本方針として、市民が健康で明るく元気に生活できる社会の実現を目指しています。母子保健事業、老人保健事業、予防接種事業、精神保健対策、結核予防対策などを関係機関と連携を図りながら推進しています。

高齢者福祉については、高齢者が健康で生きがいのある老後を営むことができるように、機能回復訓練やサークル活動等、総合的な福祉サービスを展開しています。また、障害者(児)福祉、児童福祉、母子・寡婦福祉、子育て支援、労働者福祉についても支援体制の強化や施設整備に取り組んでいます。さらに、このような多様な福祉需要に対応するために、社会福祉協議会との連携により民間福祉団体の育成強化にも努めています。

Health Care and Social Welfare

Uruma City's basic policy on health care and welfare is to create a society where citizens can live happily and free of health concerns – health care and welfare founded on comfort and communication.



市民一人ひとりが健康で安全な生活を送れるよう、保健・医療・福祉の連携に努めています。

